

令和3年度 体罰に関する意識調査結果

1 目的

令和2年4月に改正児童福祉法等の施行により体罰禁止が法定化されたことを受け、神奈川県児童相談所において体罰未然防止に係る様々な事業を行った。

事業実施による普及啓発効果を検証するため、昨年度に引き続きインターネットによる意識調査を実施した。(今回で2回目)

2 対象

神奈川県民 (インターネットにアクセスし、回答した人)

3 調査期間

令和4年1月11日(火)から同年2月10日(木)まで

4 方法

神奈川県中央児童相談所のホームページにアクセスし、性別、年齢及び以下5つの質問に回答
(個人のパソコン、タブレット、スマートフォンで回答)

児童相談所、市町村児童福祉主管課、所管保育所等でのポスター掲示、児童相談所公式Twitterでのツイート、子ども家庭110番相談LINEプッシュ機能通知等を活用し周知を行った。

- 質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。
- 質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。
- 質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。
- 質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。
- 質問5 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

数値の見方 本文及びグラフの数値は、その表章単位に合わせて計算された数値を四捨五入しているため、合計と内訳の数は必ずしも一致しない。

5 集計結果と分析

体罰禁止に関する認知度(質問1に「知っている」「聞いたことがある」と回答した人の割合)は87.4%で、**令和2年度調査と比較し1.9ポイント上昇した。**

体罰の容認度(質問2に「そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合)は13.7%で、**令和2年度調査と比較し1.0ポイント減少した。**性別では**男性**が、年齢別では**20代**が体罰を容認する傾向が見られた。

子どもへの影響の認知度(質問3に「知っている」「聞いたことがある」と回答した人の割合)は88.7%で、**令和2年度と比較し3.3ポイント上昇した。**

体罰以外の方法を学ぶ意欲に関する割合(質問に4に「そう思う」と回答した人の割合)は、**令和2年度と比較し4.8ポイント上昇した。**

「子どものために必要なしつけ」（自由記載回答）については、いずれの性別、年齢においても「体罰以外の方法」という回答が多かった。次いで多かったのは、男性では「状況により体罰は必要」で、女性では「わからない・悩む」「感情的にならない」「状況により体罰は必要」などが多かった。年齢別では、0歳～19歳が「わからない・悩む」「体罰を受けていた」、20歳～29歳が「感情的にならない」「状況により体罰は必要」、30歳～39歳が「状況により体罰は必要」「わからない・悩む」、40歳～49歳が「感情的にならない」「体罰に関すること等を知りたい」、50歳～が「状況により体罰は必要」「周知・情報提供が必要」「わからない・悩む」であった。

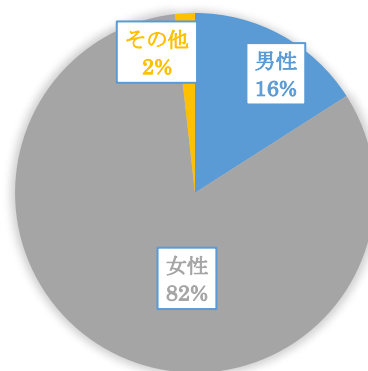
①回答者集計

回答者数：1,078人

■性別

	人数	割合
男性	172人	16.0%
女性	887人	82.3%
その他	19人	1.8%
総計	1,078人	

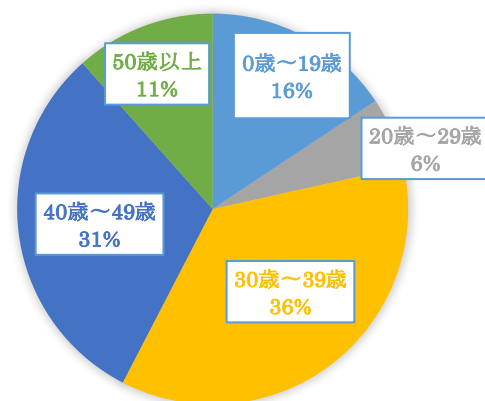
グラフ1



■年齢別

	人数	割合
0～19	169人	15.7%
20～29	63人	5.8%
30～39	389人	36.1%
40～49	332人	30.8%
50～	125人	11.6%
総計	1,078人	

グラフ2



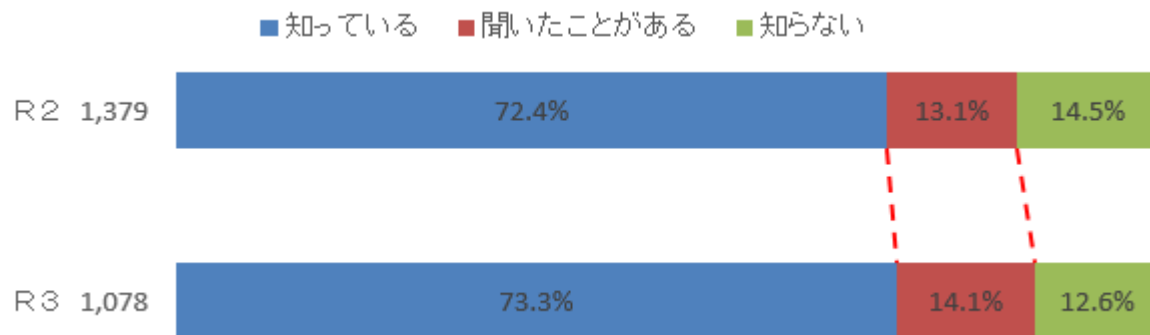
②各質問への調査結果

各質問への回答について、質問1～質問4については昨年度との比較、男女別の比較、年齢別の比較を行った。

質問5については、回答を13項目のカテゴリーに分類し、性別、年齢別の回答傾向を出した。

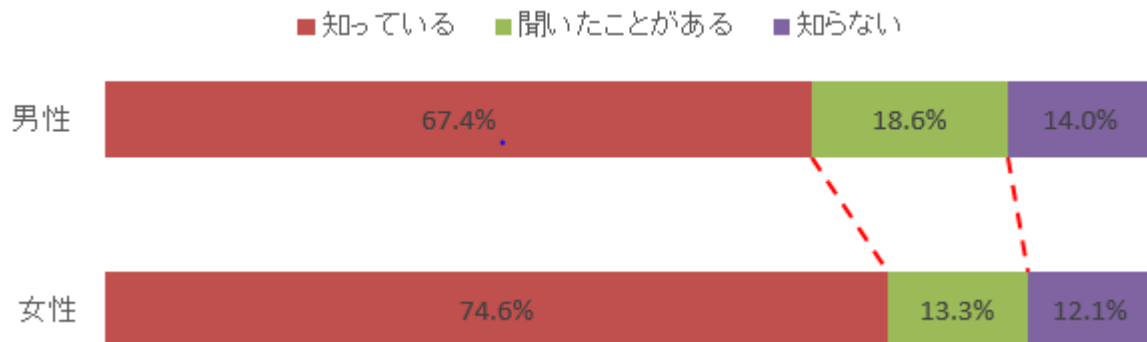
質問 1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

グラフ3 令和2年度との比較



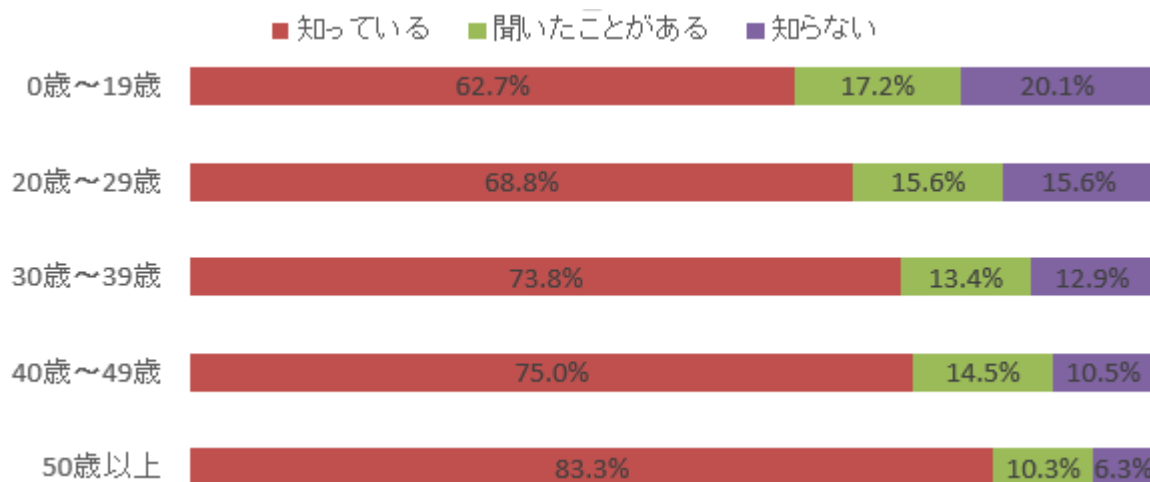
「知っている」、「聞いたことがある」の割合を比較すると、令和3年度では1.9ポイント上昇している。

グラフ4 性別と認知度の関係



男性と女性では、女性の方の認知度が1.9ポイント高い。

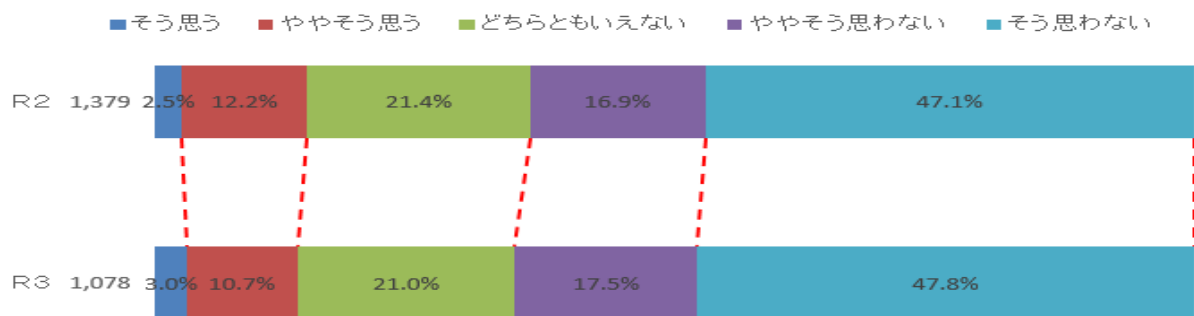
グラフ5 年齢と認知度の関係



0歳～19歳で「知らない」割合が最も高く、50歳以上で「知っている」の割合が最も高い。

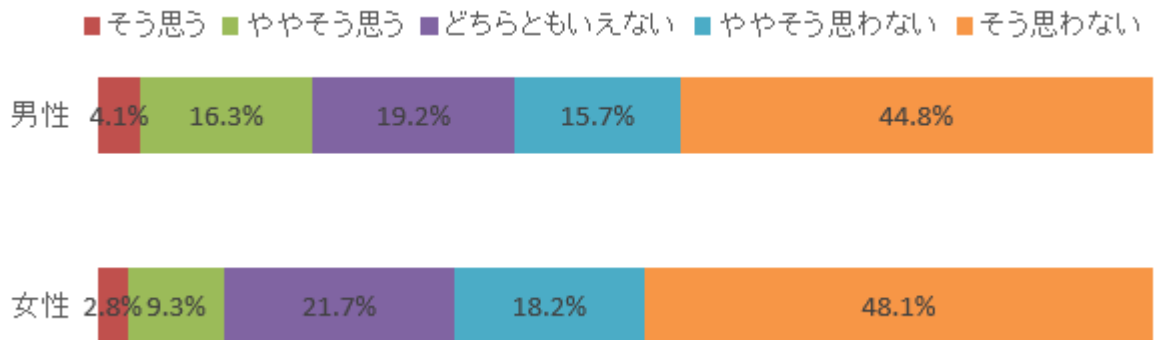
質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

グラフ6 令和2年度との比較



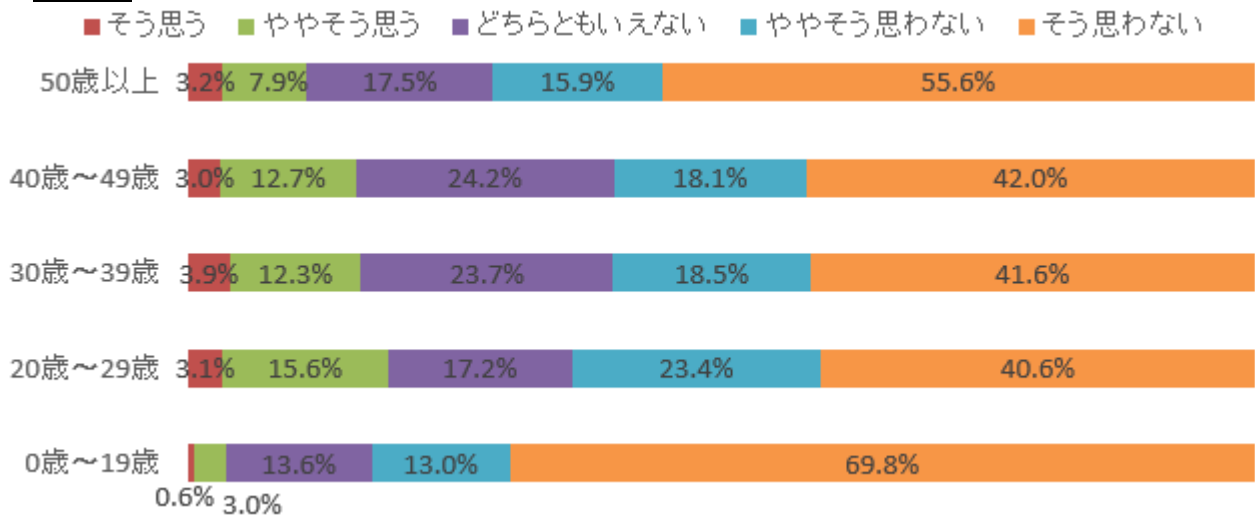
令和2年度と比較すると、令和3年度では「ややそう思わない」「そう思わない」の割合は、1.3%上昇している。

グラフ7 性別と体罰容認の関係



「そう思う」「ややそう思う」の割合は、男性の方が7.3%高い。

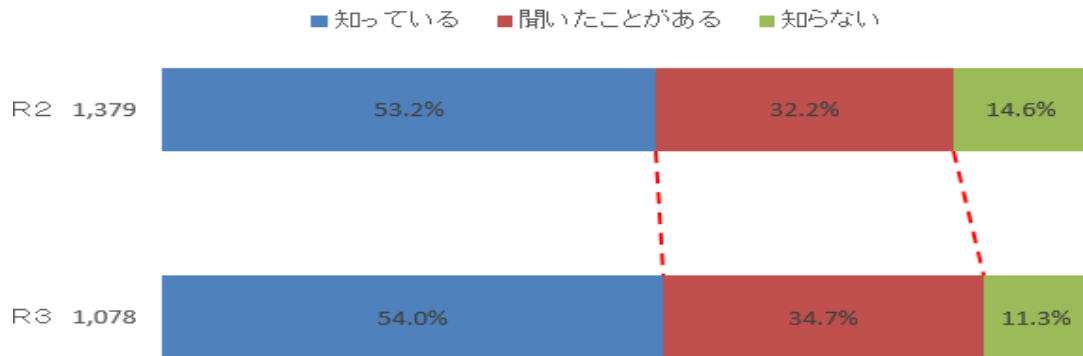
グラフ8 年齢と体罰容認の関係



「そう思う」「ややそう思う」の割合は、20歳～29歳で最も割合が高い。(18.7%)

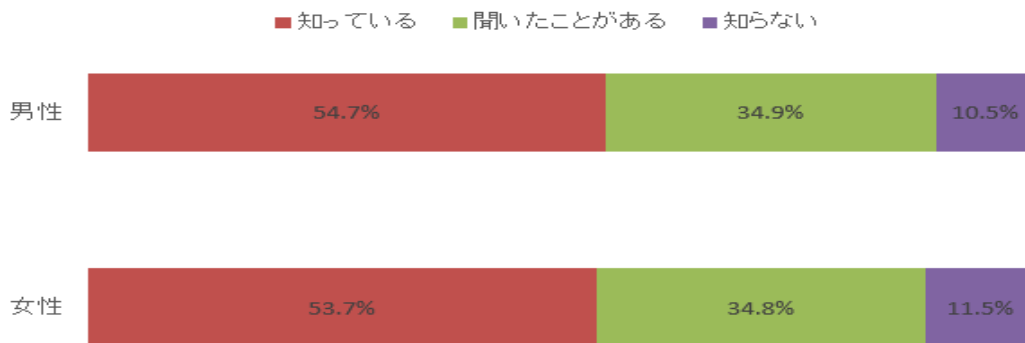
質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

グラフ9 令和2年度との比較



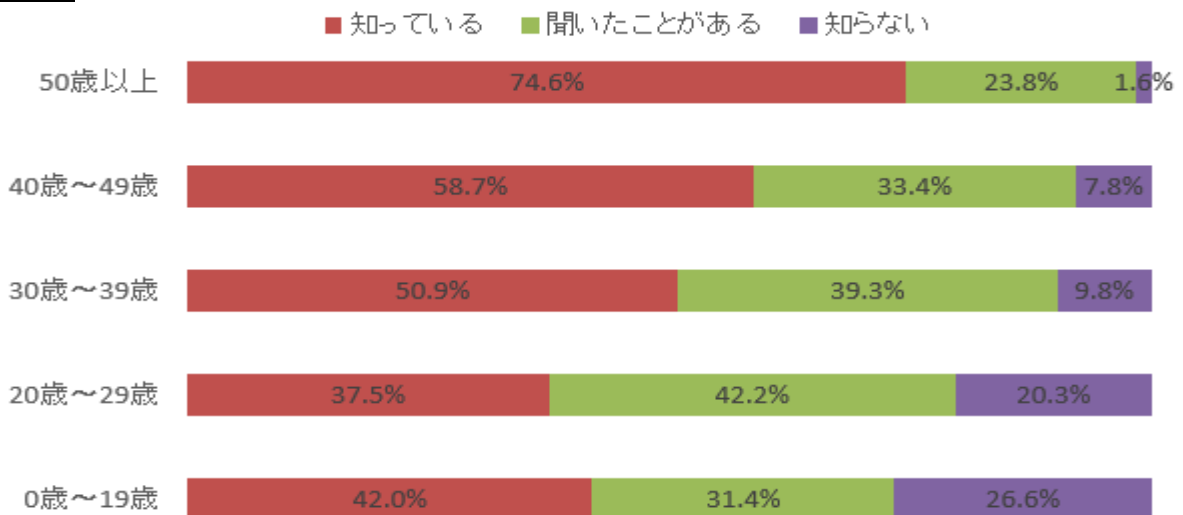
令和2年度と比較すると、令和3年度では「知っている」「聞いたことがある」の割合は3.3ポイント上昇している。

グラフ10 性別と認知度の関連性



「知っている」「聞いたことがある」の割合は、男性の方が1.1ポイント高い。

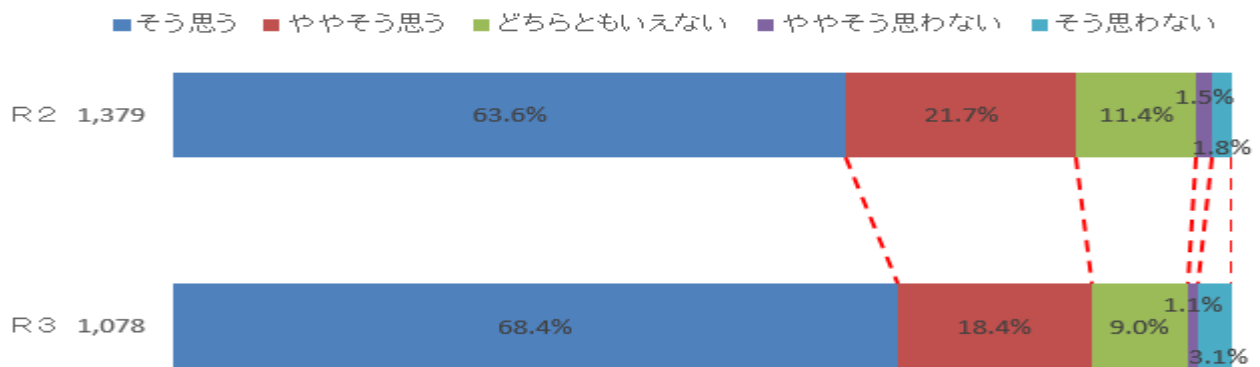
グラフ11 年齢と認知度の関連性



「知っている」「聞いたことがある」の割合は、50歳以上で最も高く、0歳～19歳で最も低かった。

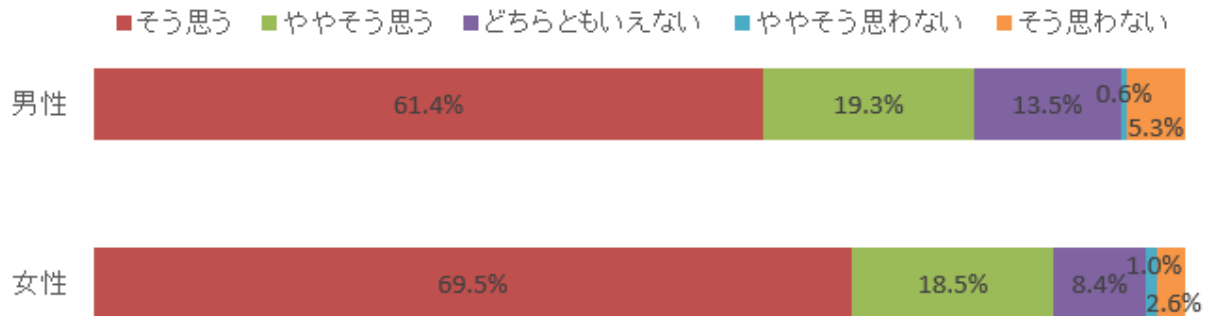
質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

グラフ12 令和2年度との比較



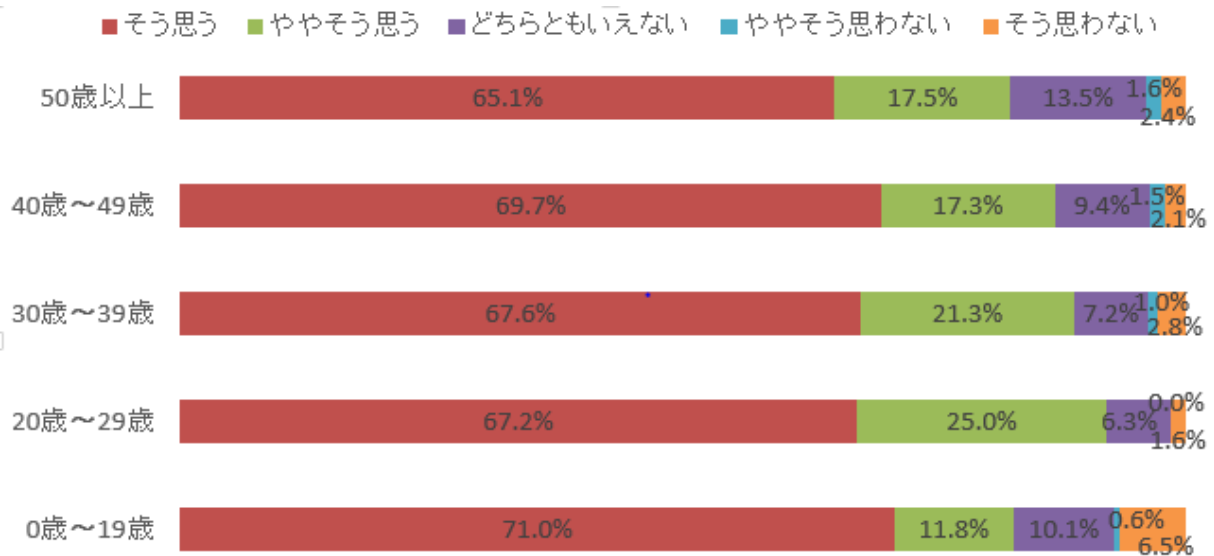
令和2年度と比較すると、令和3年度では「そう思う」の割合が4.8ポイント上昇した。

グラフ13 性別と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は、女性の方が8.1ポイント高い。

グラフ14 年齢と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」「ややそう思う」の割合は、20歳～29歳で最も高く（88.5%）、50歳以上で最も低かった。（82.6%）

質問5 (自由記載) 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

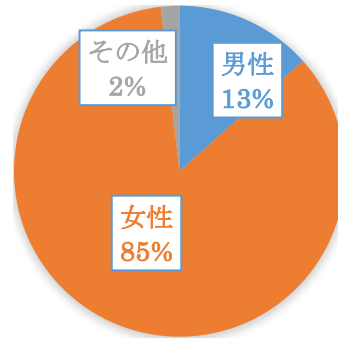
(1) 自由記載の回答数 ; 552 件

ア 上記回答者の内訳

■性別

男性	74 人	13.4%
女性	468 人	84.8%
その他	10 人	1.8%
計	552 人	

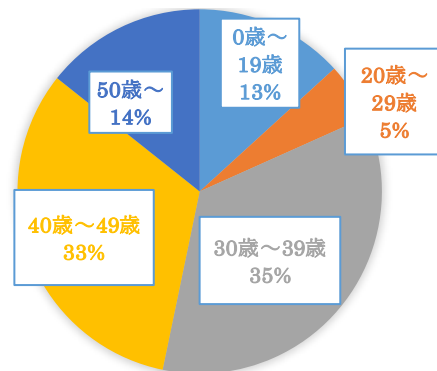
グラフ 15



■年齢

0 歳～19 歳	73 人	13.2%
20 歳～29 歳	28 人	5.1%
30 歳～39 歳	193 人	35.0%
40 歳～49 歳	179 人	32.4%
50 歳～	79 人	14.3%
計	552 人	

グラフ 16



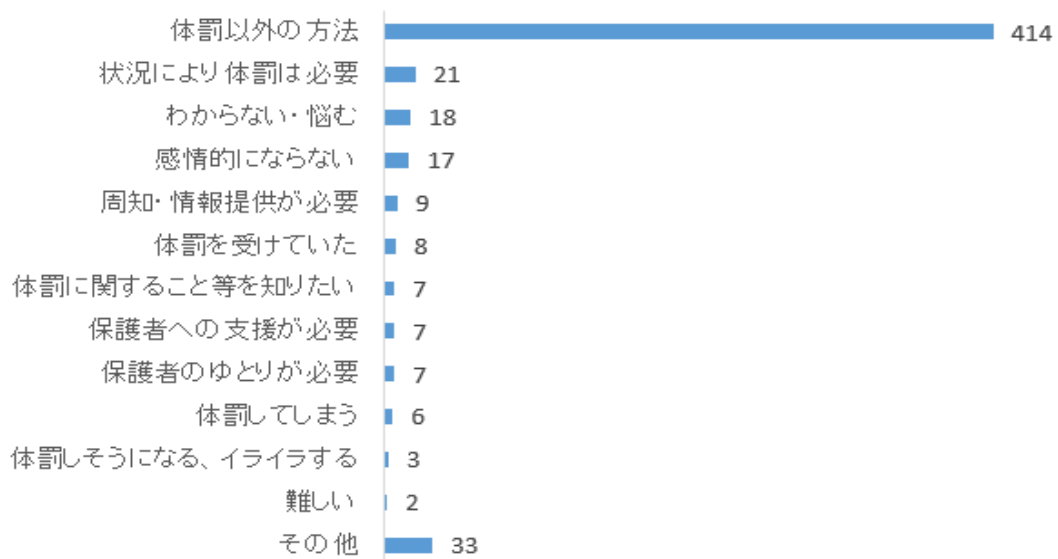
イ 上記回答の内容を以下のカテゴリーに分類

【内容】

- ①体罰以外の方法
- ②状況により体罰は必要
- ③わからない、悩む
- ④感情的にならない
- ⑤体罰に関する周知・情報提供が必要
- ⑥自分自身が体罰を受けていた
- ⑦保護者のゆとりが必要
- ⑧保護者への支援が必要
- ⑨体罰に関することを知りたい
- ⑩体罰してしまう
- ⑪体罰しそうになる、イライラする
- ⑫難しい
- ⑬その他

ウ 上記イの内容をカテゴリー別に集計

グラフ17

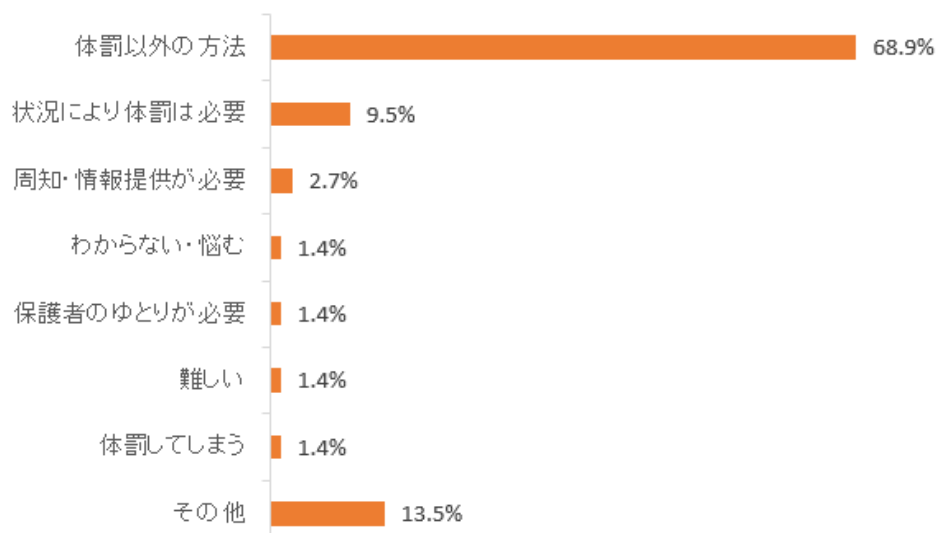


※その他の内容は、以下のとおり（長文は、一部修正等を行っています。）

- ・煽る。
- ・1歳の娘がいるシングルファーザー。家に女性がおらず、将来的に娘との接し方が不安。
- ・子の特性、親との関係性による。（複数）
- ・しつけという言葉に違和感がある。（複数）
- ・子どもへのトイレトレーニング
- ・体罰がダメという人は、実際に不良を更生させていただきたい。
- ・子どもに躰が必要と思うこと自体が思い上がり。
- ・過去に受けた教師等の体罰が自身のためになった。（複数）

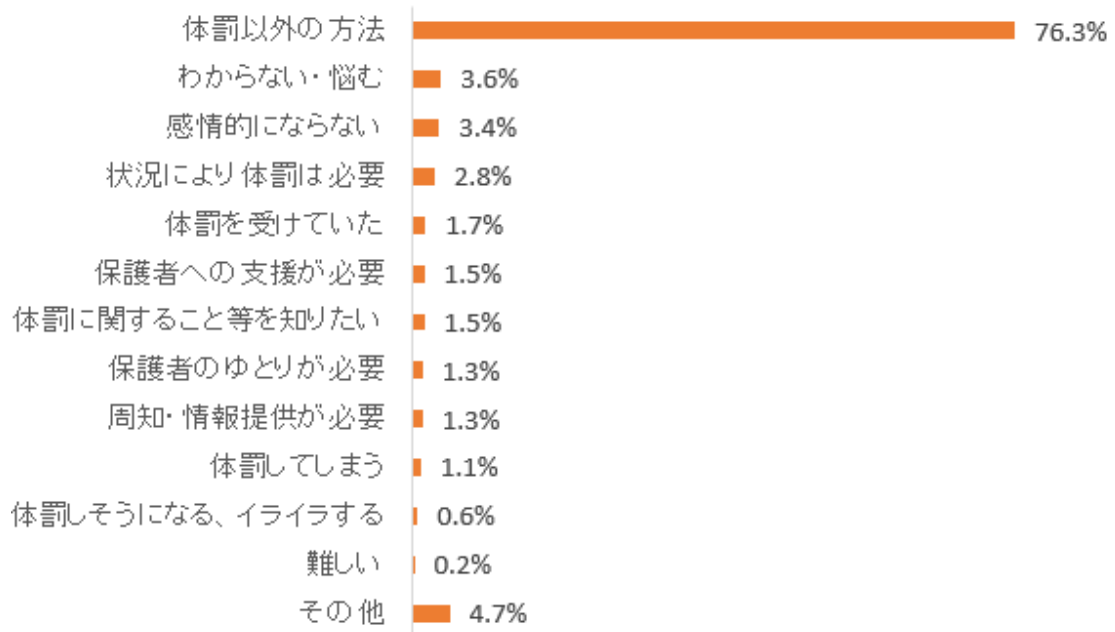
エ 上記イの内容について、性別や年齢別での回答傾向

グラフ18 男性の回答傾向



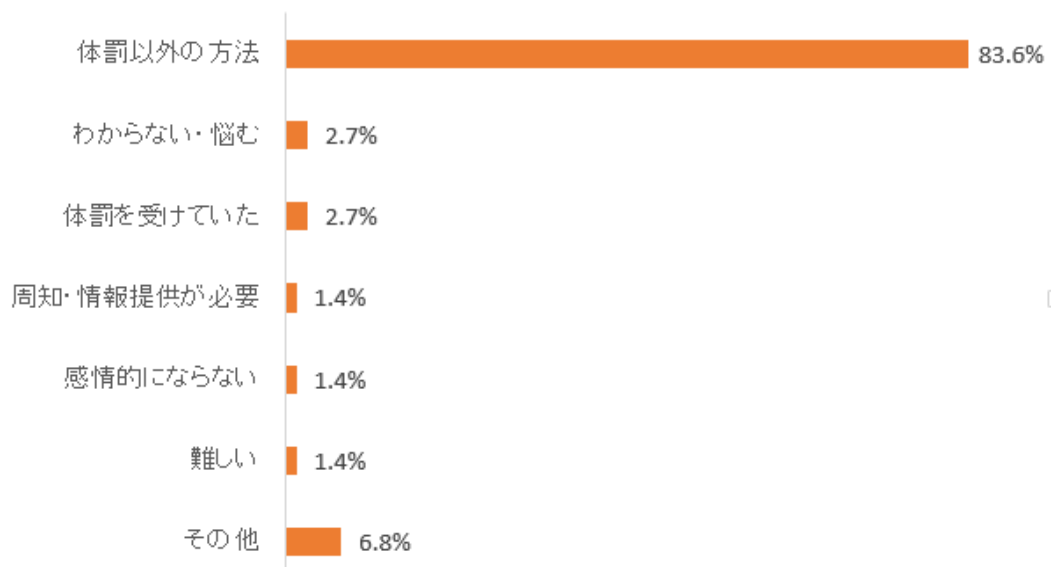
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのでは「状況により体罰は必要」で、その次が「周知・情報提供が必要」であった。

グラフ19 女性の回答傾向



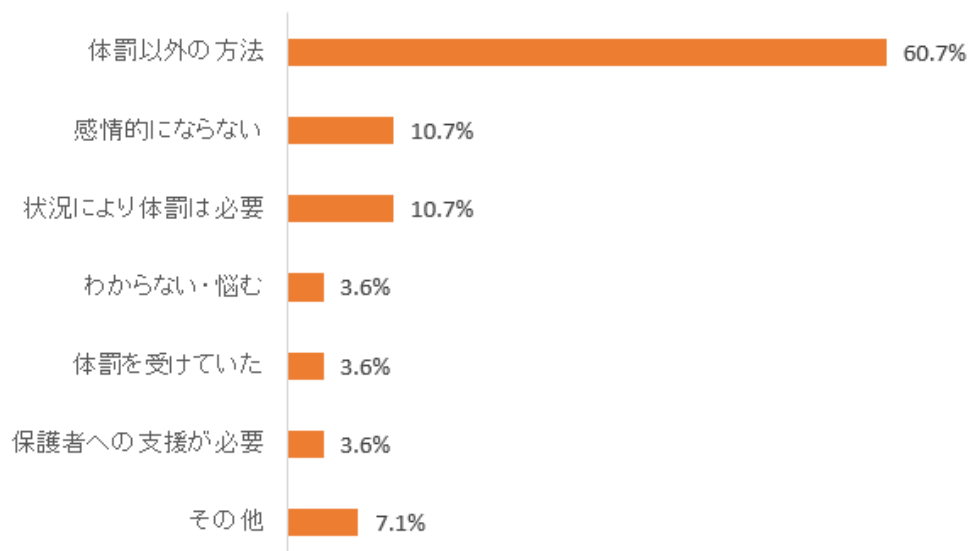
「体罰以外の方法」に次いで、割合が高かったのでは2～3%台で「わからない・悩む」「感情的にならない」「状況により体罰は必要」で、1%台で「体罰を受けていた」「保護者への支援が必要」「体罰に関すること等を知りたい」など内容が多岐に渡っていたことが特徴的であった。

グラフ20 0歳～19歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで、割合が高かったのでは「わからない・悩む」「体罰を受けていた」で、次いで「周知・情報提供が必要」「感情的にならない」「難しい」がそれぞれ1.4%であった。この年代のみ、「状況により体罰は必要」の項目はあがっていない。

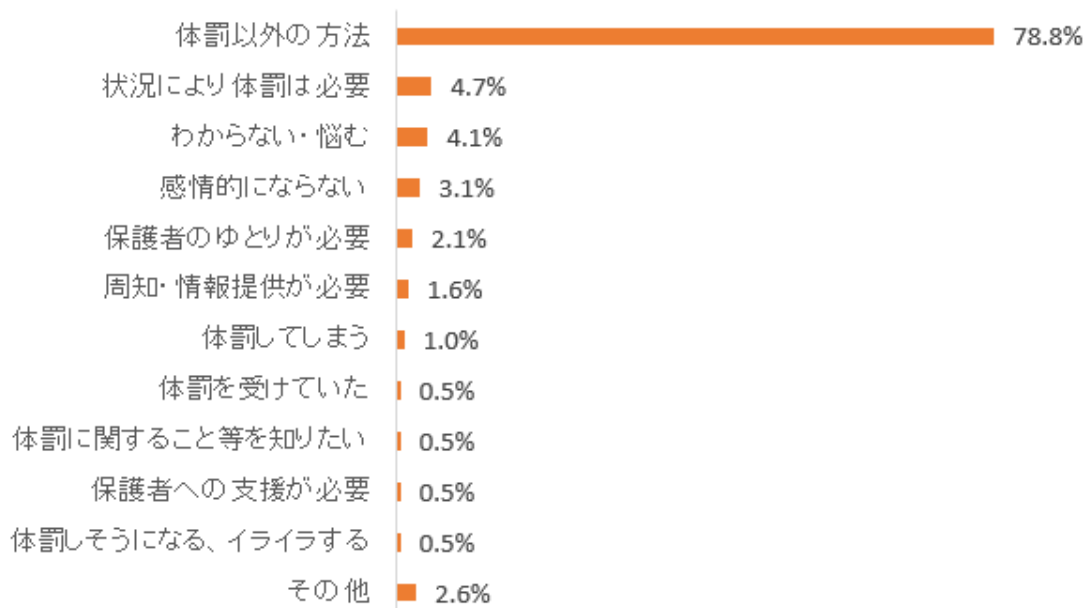
グラフ 21 20 歳～29 歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで、割合が高かったのでは「感情的にならない」「状況により体罰は必要」で、次いで「わからない・悩む」「体罰を受けていた」「保護者への支援が必要」がそれぞれ 3.6%であった。

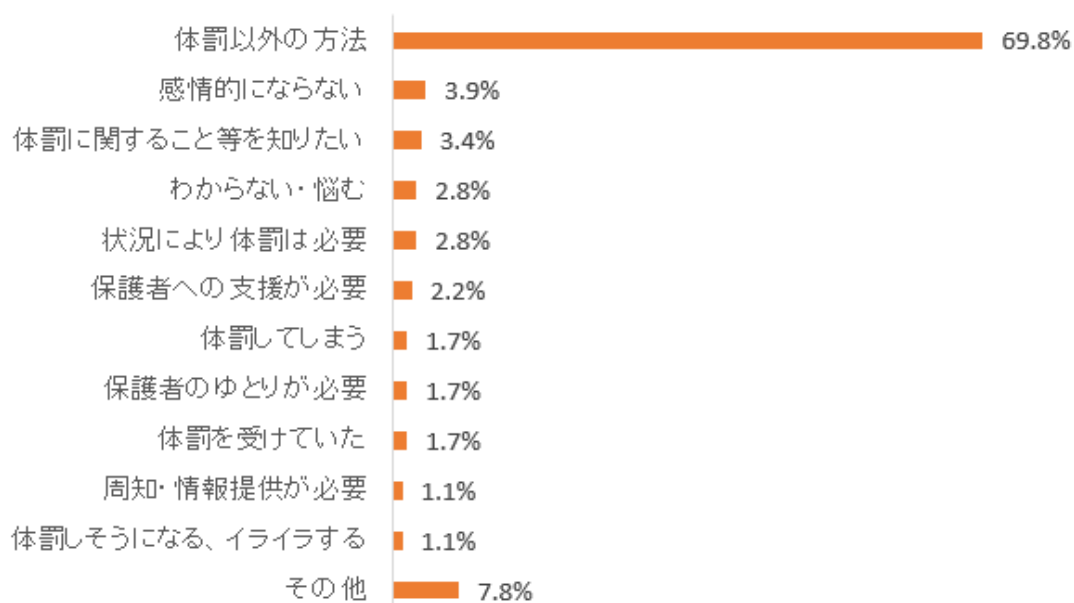
10 代 20 代など、比較的年齢が低い年代では、他の年代と比べて回答項目が少なかった。また、「体罰を受けていた」の回答はあるが、「体罰をしてしまう」という回答はなかった。

グラフ 22 30 歳～39 歳の回答傾向



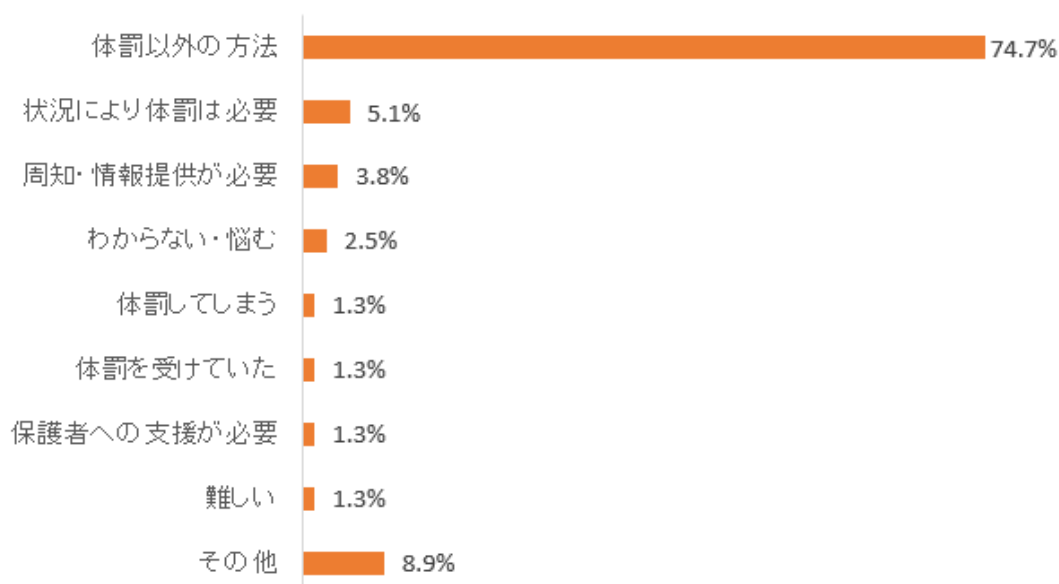
「体罰以外の方法」に次いで、割合が高かったのでは「状況により体罰は必要」「わからない・悩む」がそれぞれ 4%台で、次いで「感情的にならない」「保護者のゆとりが必要」「周知・情報提供が必要」などが 1～3%台で続いていた。1%以下の項目も多く挙げられていた。

グラフ 23 40 歳～49 歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで、割合が高かったのでは「感情的にならない」「体罰に関すること等を知りたい」がそれぞれ3%台で、次いで「わからない・悩む」「状況により体罰は必要」「保護者への支援が必要」などが2%台で続いていた。1%台の項目も多く挙げられていた。

グラフ 24 50 歳～の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで、割合が高かったのでは「状況により体罰は必要」「周知・情報提供が必要」「わからない・悩む」で、次いで「体罰してしまう」「体罰を受けていた」「保護者への支援が必要」「難しい」が1%台で続いていた。